

東日本大震災被災県中学校の取組

岩手県宮古市田老第一中学校

1. 本校の概況（震災時および現在の様子）

本校は、平成23年3月11日の東日本大震災の津波により校庭には瓦礫が押し寄せ、校舎1階が浸水し、正常な教育活動を行うことができない状態となった。そこで、近隣の田老第一小学校3階を借用し、4月25日より授業を開始した。その後、同年8月に校庭が復旧、9月に現校舎2・3階にて授業を再開、平成24年3月に校舎1階の復旧工事が完了、平成25年5月にプールの復旧工事が完了し、現在に至っている。

震災後、宮古市田老地区では、平成25年6月より防潮堤の復旧工事、7月より高台移転住宅地の造成工事、三陸縦貫道の本格工事が始まった。現在、市街地は、国道45線の山側への切り替え工事、市街地のかさ上げ工事、主な住宅移転先である高台造成工事が完了し、消防署、保育園、診療所等の公共施設や個人住宅の建設が始まっている。

宮古市田老地区の人口は、平成23年3月1日には、4,434人（1,593世帯）であったが、平成27年7月1日には、3,194人（1,284世帯）と1,240人減少した。

現在、全校生徒数は、100名である。そのうち仮設住宅に居住している生徒は、18名、区域外就学の生徒は、16名である。震災後4年が経過し、生徒たちは、落ち着いて授業、部活動等に臨んでおり、震災後から始めた津波震災体験を風化させないための発信活動や表現活動に、支援への感謝の気持ちとふるさとへの誇りを抱きながら取り組んでいる。

2. 学校の写真（平成27年10月30日撮影：宮古市立田老第一中学校校舎）



3. 特色ある取組

(1) 本校における復興教育の位置づけ

『田老一中「復興教育(4年目)」～学び、伝え、活かす人づくり～(第2期1年目)』

震災後、数年が経過し、復興が進みつつある中、生徒たちの震災の記憶が次第に断片的になりつつあり、今後もさらにそれが進むことが懸念されている。そこで、より主体的に震災の風化を防ぎ、そなえる力を身につけ、命を守るために、自ら、学び、伝え、活かし、自己を高め、社会を支える“ひとづくり”に取り組むことが重要であると捉え、「学び、伝え、活かす 人づくり」を新たな学校経営の基本理念とする。

(2) 主な取組

・交流型語り部活動「田老を語る会」

震災の記憶を風化させないようにするため、生徒たちがその意義を受け止め、主体的に「発信・表現」していく活動として、2年生では、宿泊研修の際に盛岡市内の交流校で、3年生では修学旅行で訪問する東京都周辺の交流校で行っている。生徒たちは、事前の取組でまとめたプレゼンテーションに沿って、全員による被災状況の説明や代表生徒の体験作文発表、小グループごとの意見交流、合唱交流を行い、やがてまた来るであろう「津波」から一人ひとりの「いのち」を守るため、教訓や防災の術を共に考え、伝え、広げようと取り組んでいる。

4. 取組の写真など (平成27年4月15日撮影：修学旅行「田老を語る会」合唱交流)

